

[認知症対応型共同生活介護用]

調査報告概要表

作成日 平成19年 7月22日

【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入) 4670102674
法人名	株式会社サンライトメディカル
事業所名	グループホーム やすらぎの家
所在地	鹿児島市高麗町22-16 (電話) 099-285-1211
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂本町27-5 前田ビル1F
訪問調査日	平成 19年 7月 22日

【情報提供票より】19年6月30日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14年 4月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 常勤 5人, 非常勤 3人, 常勤換算 6.8人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り 3階建ての 2階 ~ 3階部分
------	--------------------------------

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4)利用者の概要(6月30日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87 歳	最低	82 歳	最高	90 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	肥後クリニック
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅地の一角に位置する、設立5年目のホームである。目の前に公園があり、利用者は静かでありながら、地域の人々との会話ができる恵まれた環境のもとで生活をしている。また、協力医療機関が歩いて行ける場所にあるため、リハビリ訓練や行事に参加する機会も多く、生き生きとした暮らしに役立っている。運営者は人材育成に力を入れており、施設外研修の参加にも積極的で、定例会を利用した職員の研修も計画し、サービスの質の向上を図っている。さらにグループホーム周辺やゴミステーションの清掃など、地域に貢献しながら住民から声を掛けられることも増えてきた。地道な努力を重ねることで、これから地域密着型の施設としても期待が持てるグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価の結果は定例会などで職員に周知し、検討して改善計画シートに具体的な改善内容や評価の結果を記入している。「緊急時の手当て」については「緊急時対応マニュアル」を作成し、図解を多く利用し、細かく具体的な記載で実践的である。また、救急救命の研修を全職員が受講する目標を掲げ、達成に向けて取り組んでいる。「鍵をかけたない工夫」については家族の理解を求め、なるべく短時間での施錠となるように努力している。「運営理念の啓発」については広報誌などを利用したり、地域の方との会話の機会を増やすことにより取り組みを行っている
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価項目について、職員全員に周知し、定例会で検討したうえで管理者が意見を集約している。外部評価当日は資料の提示も快く行い、評価に積極的に取り組み、サービスに活かしていこうという姿勢を感じる。
	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は5回、利用者・家族・地域代表・運営者・管理者が参加して開催している。参加者は運営推進会議の意義や外部評価について確認し、家族代表から提出された外出や楽しみごとの支援に対する要望や提案についても検討し、話し合いを行っている。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) グループホームの生活ぶりは、毎月の通信により家族に報告し、年4回の家族会や運営推進会議の開催で、家族の要望や意見を聞く機会を設けている。苦情や相談受付担当者・第三者委員・行政窓口を明記し、入居の際に詳しく説明を行い、苦情があがればいつでも対応できる仕組みがある。「相談記録簿」を作成してミーティング等で検討し解決を図り、家族へも報告している。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、公園やゴミステーションの掃除など利用者と共に地域活動に参加し、住民からも感謝され、徐々に声を掛けてくださる地域の人が増えてきている。また、夏祭りを催したり、地区婦人部のバザーに参加するなど、地域との関わりを積極的に持つよう取り組んでいる。

調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は職員全員で毎年見直しを行っているが、今年は4月の定例会で「地域密着型サービス」の役割を考えながら当グループホーム独自の理念をつくりあげている。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はリビング等にわかりやすく掲示し、いつでも目に付くようになっている。また、職員の名札の裏に記載し、定例会や日々の介護で折に触れ意識化して、当グループホーム介護の基本となっている。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、公園やゴミステーションの掃除など利用者と共に地域活動に参加し、住民からも感謝され、徐々に声を掛けてくださる地域の人が増えてきている。また、夏祭りを催したり、地区婦人部のバザーに参加するなど、地域との関わりを積極的に持つよう取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価項目について、職員全員に周知し、定例会で検討したうえで管理者が意見を集約している。外部評価当日は資料の提示も快く行い、評価に積極的に取り組み、サービスに活かしていこうとする姿勢がみえる。また、昨年度の外部評価結果については定例会などで職員に周知し、改善計画シートに具体的な改善内容や評価の結果を記入し、改善している。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は5回、利用者・家族・地域代表・運営者・管理者が参加して開催している。参加者は運営推進会議の意義や外部評価について確認し、家族代表から提出された要望や提案についても検討して話し合いを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員の訪問受け入れ、中学校体験学習の受け入れ、事務手続き時の相談により市の担当課や関連する課との関わりを持ち、グループホームについて理解や支援をもらえるよう関係作りを行っている。また、地域包括支援センターとも連絡を取り、グループホームに来てもらうなど、協力して課題解決を図るよう関係作りを行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行している便りにより、個人別に最近の生活状況や心身の状況、行事計画について写真を添えて分かりやすく報告している。また、利用者の健康状態に不安があるときには速やかに家族へ連絡している。家族の訪問時にはできるだけ会話の機会を設け、日常の様子を話したり金銭出納簿の確認・サインをお願いし、訪問が少ない家族に対しては電話や郵送で金銭管理を含めて日常生活を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年4回の家族会や運営推進会議の開催により、家族の要望や意見を聞く機会を設けている。苦情や相談受付担当者・第三者委員・行政窓口を明記し、入居の際に詳しく説明を行い、苦情があがればいつでも対応できる仕組みがある。「相談記録簿」を作成し、ミーティング等で検討して解決を図り、家族へも報告している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、職員の異動や離職が利用者にも与える影響を十分理解し、最小限に抑えるように努力している。また、新任者には、利用者にも不安を与えないためによく利用者や話しをするように指示し、勤務経験の長い職員と一緒に1ヶ月ほど勤務を行い、利用者や家族が不安を持たないように配慮している。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、職員の質の確保・向上に向けた育成が不可欠であることを理解し、研修の機会を確保している。毎月開催する法人内での研修は、年間計画を立て資料作成も行っている。所外の研修も経験に応じて受講し、パート職員も含め他の職員にも勉強会や報告書などで伝達をおこなっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は質の確保のために、他法人の同業者との交流が不可欠であることを認識しており、他のグループホームとの意見交換等交流を図り、サービスの質の向上に努めている。また、相互訪問活動を行い、サービスの質の向上を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望の方には管理者が自宅を訪問し、対話の中から生活環境や入居後の希望について把握している。また、利用者と家族にグループホームを数回訪問してもらい、安心して入居できるような工夫をしている。さらに、入居後しばらくは家族の訪問を密にってもらい、馴染みながらサービスが利用できるような配慮をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員は共に暮らす同士として、また、自分の親と対応するように、お互いを認め協力し合って生活している。特に料理の仕方や食材についての知識を教えてもらったり、家事を共に行いながら、学び支えあう関係を作っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に自宅を訪問し生活の様子を見たり、グループホームの見学時に入居予定者や家族と話し合い、希望などを聞き取って入居後の生活に活かしている。しかし、入居後の利用者の希望や意向については聞き取る努力をしているが、再アセスメント等の記録が十分とはいえない。	○	入居後は利用者がどのような暮らしを望んでいるのか、どうする事が最良なのかを考え、業務日誌や介護記録等も参考に、ケアカンファレンス・担当者会議等で話し合い、ケアプランに活かす取り組みを期待したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の意向や家族・主治医からの情報により、具体的な個別の介護計画を作成している。また、定例会でケアプランについてモニタリングを行い、職員の気付きや考えを含めて検討することにより共有化を図っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎週の定例会で利用者一人ひとりの暮らしを振り返り、介護計画について変更の必要性を含めて検討している。また、計画作成担当者は毎月モニタリングを行い記録している。短期目標の期間に応じて、少なくとも3ヶ月に1回は目標毎に評価を行い、現状に即した計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者に対して受診時の送迎や付き添いなど、安心して暮らせるための支援を行っている。また、利用者が入院した時には医療機関と連携を取り、早期退院に向けての支援を行っている。さらに、家族との関係を良好に保つための外泊の援助も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医についての希望を確認し、なじみの医師による診療が継続できるよう支援しているが、現在は利用者の希望で協力医療機関にかかることが多い。また、専門医の受診が望ましい利用者は、サマリーを利用し納得のいく受診ができるように配慮している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた話し合いを家族と共に行っている。しかし、事業所としての方針の統一や記録の整備などはこれからの課題である。	○	家族会等で意向を聞きながら、当グループホーム独自の指針を作成し、利用者や家族に早期より話し合いの機会を持つ事が出来るような取り組みが期待される。
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	勉強会やミーティングを活用し、言葉のかけ方などについて職員の意識の向上を図ると共に、記録はスタッフルームに保管し、訪問した人の目に触れないようにしている。グループホーム便りは一人ひとりに作成し他には配布せず、広報誌の写真掲載については了解を得るようにして、プライバシーを守るように配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、体調に合わせて起床・朝食・入浴時間など利用者のペースを守っている。また、常に利用者の希望を聞くように気をつけ、気持ちを引き出すことを大切に支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者は、会話を楽しみながら一緒に食事をしている。また、献立は利用者の希望を取り入れ、食事の準備や後片付けに参加できる利用者は参加し、職員の見守りや声掛けの中、張り合いや自信、心身の力の維持や向上につながっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には午後からの入浴であるが、毎日入浴できる。入浴をゆっくり楽しめるように時間はまちまちで、安心して入浴できるように職員がゆっくり支援を行っている。羞恥心や恐怖心にも配慮して、一人ひとりにあった支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居時の情報収集などから利用者の生活歴や力を活かした活動を探し、買い物に出かけたり、野菜作りをするなど、役割・楽しみごとを行う場面作りをしている。また、日常生活の中で役割を見出し、力を活かす支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	管理者は、外出する事が利用者にとって大切なことであると認識をし、買い物・お墓参り・ドライブに出かける機会を作り、必ず1日に1回は外に出るように支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者及びすべての職員が、鍵をかけないケアについて認識し鍵をかけない方針であるが、夕方と午後の入浴の時間帯など、職員の目が行き届かない時間帯だけ施錠を行う事がある。また、家族には鍵をかける事について了解を得ている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は夜間想定も含め年2回行い、消防署・セキュリティ会社の協力を得て事務室には通報用の電話を設置している。緊急時の連絡網も掲示し、災害時の食料や飲み水等の備品は近くの協力病院に準備している。しかし、日頃よりの地域の協力については働きかけが十分とは言えない。	○	すぐ近くに協力医療機関があるため緊急時には協力を得ているが、地域の協力も得るように、避難訓練に参加してもらうなどの日頃の関係作りをしておく事が望ましい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は一人ひとり記録し、水分摂取については必要時には記録している。また、水分についてはできるだけ促したり、お茶の時間を設け楽しみながら一日の水分量が確保できるように工夫している。管理栄養士より個々に合わせた食事形態や献立についてのアドバイスをもらい、支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂からは公園が見え、テレビの前の一角にはソファが、和室には仏壇を置き居心地の良い空間となっている。また、採光や換気も十分で、季節の花が飾ってあり居心地の良い環境を保っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や小物などを配置したり、家族の写真を飾るなど、安心して居心地良く過ごせるような工夫をしている。また、家族の訪問も歓迎し宿泊も可能となっている。		